

会議録

<会議名称> 令和7年度 第1回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日> 令和7年12月3日(水)

<時間> 16時~17時10分

<場所> 岸和田市教育センター 1階 視聴覚研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

| | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| 濱野校長 | 木實校長 | 濱野教頭 | 井上教頭 | 何森教諭 | 藤川教諭 |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(教育委員会事務局)

| | | | |
|-------------------|--------------------|----------|--------|
| 長岡学校教育部長 (委員長) | 石井学校教育課長 (副委員長) | 松本人権教育課長 | 村上指導主事 |
| ○ | ○ | ○ | ○ |

(学識経験者)

| |
|------|
| 山口教授 |
| ■ |

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 委員自己紹介
3. 説明
 - ・小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等
 - ・各中学校区の取組み状況について
4. 意見交換等
5. その他

<当日配布資料>

- ・岸和田市小中一貫教育基本方針
- ・岸和田市小中一貫教育推進会議 設置要領
- ・小中一貫教育取組み状況一覧
- ・各校区小中一貫教育推進計画

1. 教育委員会挨拶

【長岡委員長】

皆さん改めましてこんにちは。

学校現場の方では、本当にインフルエンザがいろんなところで流行しております。多くの学校では、学級閉鎖や学年閉鎖になっていると思います。そのような2学期のご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

まず、最初に、この会の開催が12月になっていることにつきましては、先日各委員の皆様がたの方にはお詫びをさせていただきましが、改めて、本当に申し訳ございません。

来年度以降、小中一貫教育や小学校と中学校の連携を今一度大切にするという意味でも、計画的な進行を行っていきます。

本会について、昨年度までの流れを申し上げますと、小中一貫教育基本方針が令和2年に策定されまして、それに基づいてどのように進めていくかを議論してきました。今年度から本格的に、小中一貫教育の担当者を中心に、各中学校校区において推進計画を立て、実行していただいている。昨年度の申し合わせ事項として、一貫教育基本方針の中で、「新たな科の設置」の明記があります。現段階では組織づくりが不十分な中、「新たな科」について並行して進めることができ、混乱を招くのではないかと、各委員からご意見をいただき、委員の了解のもと、進んでおります。「新たな科」の設置については、しっかりと時間をかけて検討してこうとなっています。本日委員の方から、組織的な取組が各中学校区で始まり、落ち着いているとの報告があれば、「新たな科」についても、どの時期どのように進めていく、もしくは、今年始まったばかりで、早急に取組むのは難しいということであれば、検討いただきたいと思っていますので、今の現状を踏まえて、議論できたらと思います。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

2. 委員自己紹介

3. 説明

【長岡委員長】

それでは次第の3つ目、「説明」です。事務局のほうからお願いします。

【村上】

<小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等>

それでは、ご説明させていただきます。

はじめに、小中一貫教育推進会議の目的、組織、役割等についてご説明差し上げます。

お配りしております資料の、岸和田市小中一貫教育設置要領をご覧ください。

まず、本推進会議の目的についてですが、本市の小中一貫教育における諸課題と、その解決方法などについて幅広く議論し、本市小中一貫教育を評価、改善しながら進めていくことを目的に、この推進会議を設置しております。

次に、組織についてですが、学校教育部長、学校教育課長、人権教育課長、学校教育課指導主事、小学校校長会代表、中学校校長会代表、小学校教頭会代表、中学校教頭会代表、小学校教員代表、中学校教員代表で組織するものとしております。

委員長を学校教育部長が、副委員長を学校教育課長が担うものとし、委員長が必要と認める

きは、学識経験者の参加、または助言を求めることがあります。

次に、役割についてですが、小中一貫教育の学校運営に関すること、形態に関すること、教育課程や指導体制に関すること、教育活動の評価に関すること、施設一体型と分離型における具体的取り組みに関すること、その他、推進に向けて必要な事項、これらについて審議を行うとなっております。その他については、ご覧おきいただきますようお願いいたします。

次に、お配りしております、ステープラー留めの令和7年度各校区の小中一貫教育推進計画をご覧ください。昨年度の2月末に各校区の管理職の先生にご依頼を差し上げ、各校区にて作成いただいた推進計画となっております。

この推進計画に基づいて、各校区において、本年度小中一貫教育にお取り組みいただいている。本日はこれすべてを読み上げますと時間もかかりますので、またお時間もよろしいときに、ご覧いただきますようお願いいたします。

＜各中学校区の取組状況＞

続いて、A3横置の別紙をご覧ください。

別紙につきましては、各校区の小中一貫教育の取り組み状況をまとめたものです。後程委員のみなさまからも、進捗状況等補足していただきますが、事務局で把握していることをお伝えさせていただきます。左側には各中学校区、学校名を記載しており、右の欄には小中一貫教育の目標、めざす子ども像を記載しております。これらにつきましては、ご覧いただきますようお願いいたします。

本日は、重点取組、取組状況についてご報告を差し上げます。

はじめに、岸城中学校区です。岸城中学校の重点取組は、

- ・短時間グループアプローチを基にした仲間づくりの推進。（学力向上）
- ・小中相互授業参観による授業改善。（英語科・外国語科等）（研究）
- ・授業のユニバーサルデザイン化の推進（特別支援教育）
- ・教職員の校区合同研修の実施。
- ・小中学校9年間を見通した人権教育プログラムの見直し。
- ・定期的な連絡会による情報共有。（生徒指導）
- ・各校の取組や現状の共有。（管理職 毎学期）

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

・小中一貫教育について、校区各学校の校長・教頭・首席・生徒指導担当が集まり、今年度の取り組みについて会議をもった。

・夏季休業中に、小中一貫教育で中心的に連携していく7つの領域について担当者同士の会議を実施。（①学力向上 ②SST ③生徒指導 ④生徒会児童会 ⑤特別支援教育 ⑥人権教育 ⑦道徳教育）

・今年度は中学校担当者を主として、各会議の日程調整や内容を考えている。短時間グループアプローチを中学校区で実施。（本校では年度当初に校内研修を行い、必要なカード等は担当者が準備、学級担任だけでなく、管理職を含めた全教員がT1あるいはT2で行っている。）

- ・既存の取組に小中一貫の視点を取り入れている。

次に、光陽中学校区です。光陽中学校区の重点取組は、

- ・学び合いによる学習活動について研究を進める。
- ・各校で学力向上に向けた授業改善の具体策を明確に示し、取り組む。
- ・授業のユニバーサルデザイン化をさらに進め、基礎基本の知識技能の確実な習得をめざす。
- ・児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進を図る。
- ・S N S の望ましい活用方法について、外部講師を招くなどして理解を深める。
- ・小中で児童生徒の様子をきめ細かく情報共有する。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

- ・校区内での授業参観の実施。（予定）
- ・管理職で方向性を確認。その後、共有した内容の実施。
- ・夏季休業中に、中学校区の各部会担当者が連携会議を行い、現状等を共有。
- ・中学校区で共通理解のうえ、グループエンカウンターに関する取り組みを実践。
- ・中学校区合同研修会を実施し、教職員全員が参加。
- ・グッジョブカード、ありがとうの樹など、自己肯定感の向上にかかる取組を実施。
- ・課題として、小学校から中学校に分かれて進学してくるため、すり合わせが必要と感じている。

次に野村中学校区です。野村中学校区の重点取組は、

- ・すべての教育活動を通じて「言語活動の充実」に取り組む。
- ・「子どもの良さを認める指導」を核とした生徒指導に取り組む。
- ・中学校で取り組んできたS E Lについて、小中が共通して取り組む。
- ・小中が互いの教育実践を公開する。
- ・小学校においても「NOMUタイム」を推進。中学校から出前NOMUタイム実施。
- ・中学校校内研修会（S W P B S）を小学校も招いて実施する。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

- ・校区小中一貫教育推進計画に基づき、野村中学校で取り組んでいるスリンプルプログラム（S E L）をアレンジし、朝陽小学校では「C h o タイム」として実施している。
- ・校区小中学校で共有された具体的な活動。
- ・小中の共通理解を深めるための担当者会を計画し、目標だけ立てて終わるのではなく、実際にできる活動を考えていく（P B S ・ NOMUタイムなど）。
- ・合同での研修会の実施。
- ・負担感のない取組を心がけている。

続いて桜台中学校区です。桜台中学校区の重点取組は、

- ・学びの土台づくり・立腰・コグトレ・スリンプルプログラム・朝読書・学習習慣の定着。
- ・知的好奇心をくすぐる授業づくり、情報活用能力の育成、コミュニケーション能力向上に向けた取組み、研究授業の実施と校区相互参観。
- ・学習規律、生活ルールの確認や指導状況の情報共有。
- ・人権教育の推進。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

- ・年度当初に管理職で推進計画を確認。学期に一度関係者会議を実施。
- ・生徒指導・研究・学力向上・特別支援教育・地域連携の各部会の長が集まり、交流・情報交換を行う。夏には全教員で会議を行った。
- ・夏季3校合同研修の実施。
- ・夏季休業中に予定していた校区合同研修を2学期にずらし、負担軽減を図った。

続いて、葛城中学校区です。葛城中学校区の重点取組は、

学 校 : 新入生説明会、支援見学会、小中連絡会。(引継ぎ)

各小学校の6年を中心に授業見学。

夏季小中研修会。(学力向上を視野に入れ、校区内で互いの顔を知る・教科書を見合う・成績基準や進路について知る)

生徒指導:中学校体験入学、葛城中学校Q&A、約束、きまり、生徒会。

学 力 : 読書、9年間を見据えた学力向上の取組。

生活習慣:ベル着、立腰。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

- ・学期に1度、葛城中学校区の小中一貫教育の担当者が集まり、各学校の様子を共有している。
- ・校区内の校長4人で年間2~3回、小中一貫教育について共通認識を行っている。お互いの校内研修に参加(管理職)し、伝達している。
- ・長期の休暇中に、校区合同の研修会を行った。
- ・生活アンケートについて共有。
- ・英語出前授業。
- ・2学期には支援教室見学会を月2回開催し、支援学級との連携が円滑に進むような取組をしている。

次に、土生中学校区です。土生中学校区の重点取組は、

・ソーシャルスキルトレーニングを3校連携して実施し、話す力・聞く力を醸成していくとともに、集団づくりにも活用していく。

- ・小集団を活用した言語活動の積極的な導入。
- ・授業規律、学習規律において重視する観点の共有。
- ・9年間を通したキャリア教育のさらなる充実。
- ・共通した課題を明確にしたうえでの授業改善策の共有化。
- ・自主学習の充実をめざした取組の共有。
- ・自分の良さを発見し自己有用感を高めるための取組みの推進。
- ・重要視するポイントを明確にした生徒指導生活指導のあり方の共有

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

- ・定期的な連絡会や合同研修会の実施次年度はロイロノートの使い方について行う予定。
- ・校内教育支援ルームの在り方の共有。
- ・めざす子ども像の実現に向け、課題等をふまえた統一した取組の実施。

- ・相互授業観察や出前授業、授業交換等の実施。
- ・生指や支援を必要とする子どもたちの情報共有や、早めの保護者面談、授業見学など、切れない支援を行えるようにしている。
- ・負担のないように、まずは、それぞれが行っている教育活動を系統立てて整理するところから始めている。

次に、久米田中学校区です。久米田中学校区の重点取組は、

- ・久米田中学校区で毎年夏季合同研修会を実施し、分科会（生指・人権・特支・研究）ごとに交流する。

- ・生徒指導、人権、特別支援教育、研究の4領域で重点的に小中連携を推進する。
- ・小中の生徒指導担当者会を各校輪番で実施し、児童生徒の様子を共有する。
- ・人権・特支・研究についても担当者会を行い、各校の実践を交流する。
- ・各校で行われる研究授業や研修会へ互いに参加して交流を深める。
- ・児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進を図る。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

- ・毎月の生徒指導会議で、生徒指導担当者が小学校の様子を聞かせてもらうとともに、中学校の様子をお伝えし、相互に情報交換を行い、児童生徒の継続的な見守りを行っている。

- ・8月1日（金）に小中合同研修を実施。
- ・昨年に引き続き各校の小中一貫担当者会議のなかで、連携について学校として小学校とより密に連絡を取っていく。
- ・従来の小中連携で取り組んでいたものを系統的に整理しなおしているため、現段階での大きな負担にはつながっていないと考えている。

次に、山直中学校区です。山直中学校区の重点取組は、

- ・学びの土台づくり。（立腰、黙想・朝読書）
- ・知的好奇心をくすぐる授業づくり、情報活用能力の育成、コミュニケーション能力向上に向けた取組。（研究授業の実施と校区相互参観）

- ・学習規律・生活ルールの確認や指導状況の情報共有。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

- ・管理職、小中一貫教育担当者で校区としての方向性を職員に周知していく。
- ・生徒会の取組（あいさつ運動など）を中学校だけでなく校区の小学校においても行い、校区としての取組を増やす。
- ・学力について、「すす勉WEEK」（家庭学習週間）や出前授業、相互授業観察などの取り組みを行う。
- ・生徒指導主担当者の小中連携会議、支援学級の交流、小中一貫教育担当者会を定期的に実施。
- ・夏に小中一貫会議を実施し、それぞれの分掌ごとに教員間の情報共有し、校区としての方向性を決めていく。
- ・3学期に「服のチカラプロジェクト」を校区で実施。

次に、春木中学校区です。春木中学校区の重点取組は、

- ・自尊感情とソーシャルスキルを育てる取組、「シンプルプログラム」を校区全体で実践する。
- ・コミュニケーション能力を育む授業づくり、各校それぞれのテーマで研究授業等を行い、校区内で相互参観する。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

- ・「豊かなコミュニケーション能力を身につけて柔軟に物事を考えられる子ども」をめざす子ども像として、校区各校の管理職と担当者で取組の情報交換を定期的に行う。

・自尊感情とソーシャルスキルを育てる取組「シンプルプログラム」を校区全体で実施する。また、コミュニケーション能力を育む授業づくりを各校それぞれのテーマで研究授業等を行い、校区内で相互参観する。今年度は5月に春木中学校、1月に大芝小学校で曾山先生を講師に招いて校区職員研修会を実施予定。

- ・生指連絡会（月1回）に専門家も入り、情報共有を行っている。
- ・交流で授業研究を行う予定。

次に、北中学校区です。北中学校区の重点取組は、

- ・あひるの約束を徹底。（あ…挨拶をしよう、ひ…人の話を聞こう、る…ルールを守ろう）するために① 挨拶運動②小中生徒指導間連絡会及び情報の共有。

- ・学力向上に向けての授業改善の取組を行い共有する。
- ・出前授業を行い小中間の意識の差を埋める。
- ・定期的小・小間、小・中間の学校見学を行い、情報交換を行う。
- ・小中9か年の連続した取組を進める。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

・毎月校区校長会を開催し、一貫教育についての情報交換・意見交流を行っている。また担当者を中心に適宜会議を行い、昨年度の取組についてP D C Aを行い、本年度できる活動を実施している。（支援学級参観・説明会、あいさつ運動、ふれあい授業、きーたん食堂など）

- ・小6出前授業、小中合同研修会、あいさつ運動を実施。
- ・北中校区フェスティバルを実施。既存の取組を発展させ、負担感のないようにしている。
- ・3校で人権作品の展示会を実施。

最後に、山滝中学校区です。山滝中学校区の重点取組は、

- ・共通の学びの土台作りとして、コグトレ・読書活動の推進に取り組む。
- ・授業の中の基本的なルールを統一し、3校が足並みを揃えて定着に取り組む。
- ・小中学校相互の授業見学、情報交流会を実施する。

となっています。この重点取組に向かって、今年度、次の取組を実施しています。

・これまで各校で行ってきた取組みを、「めざす子ども像」実現の方向性で意味づけする。

・できることから、3校で足並みを揃えて取り組む。

・3校共通の課題について、合同研修会を実施した。夏休み中に指導主事が小中一貫について研修に来校した。

- ・1学期は小学校の先生方が中学校へ、2学期は中学校の先生方が小学校へ授業見学を行った。
- ・既存のものを活用しているので、無理のない範囲での取組ができている。

以上でございます。

先ほども少しお伝えしましたが、昨年度、委員の方からご意見いただきました、新たな取組をすることで先生方の負担が増えるのではないかという部分につきましては、夏に実施したヒアリング、そして2学期に実施した小中一貫教育担当者会においても、そのような視点で聞き取りを行いました。現段階ではそれぞれの学校が行っている取組を整理したり、系統立てたりしている段階なので、著しい負担増には繋がっていないと聞いております。今後も引き続き、聞き取り等を実施してまいりたいと考えております。少し長くなりましたが、以上でございます。

【長岡委員長】

今、各中学校の取組状況ということで、事務局から報告説明がありましたが、この点に関して、各委員のみなさんから何かご意見等や感想はございますか。あれば、お願ひいたします。

【何森委員】

取組状況のところに、負担に関わるところに対する回答が一定あるように思います。これは項目的にどのような形で集約されたのか。集約の上で、抜けたのかもしれません、取組状況の中に入っている校区もあれば入ってないところもあるということで、どのように設定されて、どのように実施されたのかということをまず伺いたいです。

【村上】

まず、夏休みに実施した各校のヒアリングの項目の中に、小中一貫教育について記載していくだ箇所があり、その中で特徴的な取組や、負担が増えないような工夫を記載いただく形をとりました。また、小中一貫教育担当者会では、グループ協議で、そのような話もして欲しいということで聞き取りをさせていただきました。取組状況の中に、一部抜けているところもありますが、基本的に聞き取りの中では、著しい負担の増加には繋がっていないとのことでした。以上です。

【何森委員】

事務局から、聞き取りやアンケートで共通して、しっかりとそのような項目を入れておくのも1つの方法ではないか。と思います。

【長岡委員長】

ほか、その点についてでも結構ですし、委員のみなさんから何かございませんか。

【何森委員】

今の件について、昨年度の議論の中で、アンケートや調査の際に、小中一貫の取組を聞けば、各校区での取組は、自然と上がってくる。しかし、現場の負担を増やさないようにしながらということについては、一生懸命やることで意識をしなくなってしまうから、あえてアンケートにそれを入れることで、負担を増やさないということを管理職も含めて、意識してもらうという趣旨で入れるという話になったと思います。ですので、アンケート項目に書いていなければ、昨年の話と違うと思うことと、必ず意識せねばならないということが周知されていたのであれば、全て

の学校から上がってきてもおかしくない内容だと思うので、質問をさせていただきました。

【村上】

失礼いたします。夏のヒアリング、小中一貫教育担当者会での聞き取りとは別に、全ての中学校の校長先生に聞き取りも実施しました。その中でも、負担感のない取組について聞かせていただいております。いずれの学校についても、負担感のない取組を心がけているとか、まずは、それぞれの学校がやっていることをテーブル上に挙げて、系統立てる、または整理するという段階なので、負担感に至っていないとほぼすべての学校で出てきました。

ほぼ全てとお伝えしましたが、光陽中学校の校長先生からは、小学校からそれぞれ分かれて、進学をしてくるので、校区間の擦り合わせが必要になることが課題であると記載しています。いずれの校長先生も、現段階では、負担感のない取組を心がけているとおっしゃっていました。

【何森委員】

最後に、おそらく校長先生方、学校、先生方も工夫されていると思います。実際今でも忙しく、さらに忙しくしようという方はおられないと思いますが、昨年度、負担なくということを意識することが事前に伝わるようにして欲しい。聞き取りの際に、負担感はどうですか。という話をすると、本来の趣旨とは違ってくる。事前に、そういうことも含めて計画を立てないといけないと、管理職の先生も含めて伝わるような形にしていただきたい。

【長岡委員長】

昨年度も、この会議が、各学校への周知が不十分ではないかという意見もありました。それを踏まえて、事務局からも、それぞれ校長先生、教頭先生の代表に来ていただいている中で、十分周知を図ってもらいたいと進めていたかと思います。今一度、取組が形骸化しないように進めていただけたらと思います。他よろしいでしょうか。

4. 意見交換

【長岡委員長】

では、4番の意見交換に移ります。委員のみなさんより、ご意見があればお願ひいたします。

【濱野委員】

北中学校区では、学期に1回ずつ、各学校へ全職員が授業参観に行くという取組を行っています。1学期は新条小学校に、2学期は城北小学校に、3学期は北中学校に全職員が行きます。午後の授業をカットした状態で参観し、それぞれ見た授業に対しての交流を深めながら、授業力改善、授業改善、或いは、授業力を上げるための取組にも繋げています。それが負担感につながらないように、指導案等は作成していません。授業を見て、子どもたちの様子をいろいろ意見交換するという形で、管理職から徹底して、取り組んでいます。

【長岡委員長】

午後、授業をカットしていることから、負担感や時間的な制約もないということですね。

【濱野委員】

計画的に時数も計算した中で実施しています。

【長岡委員長】

ちなみに、効果について、現段階では示すものがないのかもしれないですが、中学校の実態がわかり授業が変わったとか、そのような声はありますか。

【濱野委員】

小学校同士ですが、それぞれの学校の学年間の交流の部分で、すごくよかったですという声はいただいて、各校長からも聞いているので、3学期は中学校に見に行くので、新たな視点が加わればいいなととらえています。

【木實委員】

どの校区でも小中連携はやっているし、これまでやってきました。それを小中一貫教育でやろうという趣旨は、今までやってきたことを系統立てて、目的を明らかにするということが必要だと感じています。また、違う中学校区でどのような取組をしているかわからない。その中で、このように一覧表にしていただいて、これは学ぶところあり、情報共有できるというメリットであると思います。久米田中学校区に限って言えば、話しているのは、お互いに顔が見える交流をしよう、人の交流をしようと考えています。顔は、年に1回の合同研修会でなかなか覚えられないけれど、雰囲気は伝わります。また、絶対に参考集型で集まる機会を作ろうと話をしています。そこから派生して、例えば英語科では、小学校の授業に行き、小学校の英語の先生を集めて研修を開いたりとか、人権教育では、小学校も中学校も同じような課題があるのを発見して、小中合同で研修会を開こうとなりました。生徒指導担当者では、お互いに情報共有をして、子どもの背景に迫るなど、そのような効果がどんどん生まれてきています。負担感についてですが、負担感というのは感覚の問題だと思うので、嫌なこと、目的がはっきりしないことを、無理やりやらされたら当然負担増えると思います。我々管理職が気をつけないといけないのは、これをしてることで、1年を通じて、業務量が例えば1.何倍に跳ね上がるとか、そういうのは絶対避けないと想っています。藤川さん、どうですか。

【藤川委員】

負担には感じていません。

【木實委員】

そこまで負担や業務量の増大が、莫大になっていることはないし、当然夏の研修行う時期はお互いに調整が必要で、業務は増えますが、それによって一年通じた負担にはなっていないと考えています。しかし、基本方針の中で述べられている、新たな科の設置については、これが果たして校区中でそれぞれ抱えている課題が違う中で、例えば総合的な学習の時間を使って、その課題に対応したり、特別活動で対応していくますが、その設定を学校がするのではなく、市として設定すると、かえってその課題を解決しづらくなるのではないかと思います。そのような部分は、

各学校区に任せてもいいのではと思います。あと、教科担任制や、相互乗り入れ指導についても、中学校にもそういった空き時間は全くないのが現状です。授業がない時間に、授業準備はもちろんのこと、生徒指導であったりとか、先生は校内を忙しく走り回っています。その中で、例えば小学校のある授業を中学校の教員が行うというのは、現状ではそれ専門の加配をいただかないと不可能だと考えます。

【長岡委員長】

ありがとうございます。小中一貫教育基本方針が出されたときも、その議論がありました。私はその時は、現場側として参加していましたが、そのときに確認したのが、この基本方針は改訂が可能なのか。ということです。現在の実態や子どもたちの教育を見据えた上で、基本方針はどんどん改訂されるという理解でいいという確認をしているので、木實委員から、新たな科について、基本方針から5年経った中で、本当に子どもたちに必要なかということも委員の中で意見をいただきたい。基本方針の制定の中で、1つ想定されたのが、小中一貫一体型の学校ができたときには可能なのか。今は、一体型ではなく、分離型で一貫教育を進めており、どのような工夫がいるのか、或いは、大きな課題があるのではないか、というようなことも、今後、改定していくっていうことを前提と確認していますので、このメンバーの中で、現状としては難しい、やるべきではないというような、推進会議で意見をいただいたことも含めて、進めていけたらと思いますので、お願ひいたします。

【石井副委員長】

取組状況や課題を各委員から、教えていただいて、情報があれば教えていただきたい。例えばこの校区の合同研修会を、小学校や中学校で行っておられるということですが、例えば、幼稚園や或いは学校協議会の方とか、PTAの方とともに含めて、校区の合同研修会を実施されたことがあるのか、或いは、参加はされていないけども周知をしたとかはないでしょうか。そのような取組から派生して、例えば、校区において、きょうだい関係や保護者の関係性もありますし、PTAが自動的に学校に協力するような動きが出てきたなど、そのような情報があれば、聞いているという委員さん、いらっしゃいますか。

【木實委員】

久米田校区でいえば、昨年度のテーマの際は、幼稚園はもちろんですが、他にもいろいろ呼びかけをしました。残念ながら出席はされなかつたですが。今年度のテーマは授業づくりだったので、教員対象という形で取り組みました。

【石井副委員長】

地域や学校、家庭で子どもを育てるというその視点が、広がれば、子どもたちにとってプラスというのは間違いないので、そのような取組を広めていけたらと思っています。負担感という話題が出ていましたが、地域の人が学校に携わってくれることで、すごくプラスになったという事例も後出てくるかもしれないですね。またいい取組があれば、広めていけたらいいかなと思います。

【濱野委員】

先ほど、目的がはっきりしてればという話がありましたが、やはり、中学校区ならではの課題に対する目的や目標が共有されていけば、小中一貫の趣旨に流れていくのかなあ思います。現実的なところで言うと、小中連携との違いについて、曖昧な先生方もまだまだおられますので、情報共有やっていますとか、そのようなことをもって小中一貫だと思い込んでしまうから、何とかそこをもう1歩先に進められるように共通の課題があつてそれに対してどのようにするというところを共有していく必要があると思っています。本校は授業規律や授業づくりに関して、課題があつて、情報共有をする中で、中学校も同じ課題を抱えている中でどのように授業規律を整えていくか、中学校と協議をしています。その上で、困り感があれば皆そこに向かっていくだろうというところで、まだ道半ばではありますが、やっぱり困り感の共有が第一歩と思っています。

【長岡委員長】

ありがとうございます。昨年も委員からそのことが出て、小中一貫の負担感よりも、困り感の解消に向けて、気持ちが楽になったという意見も出ていました。生徒指導面だと、共有したことによって、子どもたちの育ちについて、すごく助かったという意見も出ていました。

【井上委員】

光陽中校区の小学校について、先ほど村上指導主事からありましたように、東光小学校が岸城中学校と光陽中学校にわかれ、大宮小学校も野村中学校と光陽中学校に分かれるので、入学説明会については、調整が必要になります。そのようなことは調整をすれば、すぐに対応できるのですが、他に例えば、岸城中校区小中一貫の会議をやるとなると、東光小学校の先生はそっちに行かないといけないので、同じように光陽でやりましょうとなると、ダブルで行かないといけなくなるというふうに調整するのが結構大変な場面があります。僕も岸和田にこの4月に初めて来たところで、泉大津市と貝塚市でも教頭をさせてもらっていて、両市ではそのように小学校が2つに分かれしていくっていう校区ではなかったので、比較的小中一貫教育を行うこともスムーズでした。小中一貫については、小中連携はどこの学校でもやっていたと思いますが、小中一貫となると、めざす子ども像に中学校間で若干ずれていた場合、小学校は迷ってしまうということが起こってくると思います。施設併設型とか、分離型とかあると思うのですが、状況把握が難しいかなと感じます。

【長岡委員長】

その課題などに対しても、またいい知恵をいただけたらと思います。

【何森委員】

取組に関しては、教育課程の問題で、どちらの学校も常に改善されていると思いますのでそこについて異論はありません。今日もお伝えしているように、教職員にしっかりと合意を図ってくださいということは、委員会、事務局の方がご努力されていると思いますし、何か増やすにあたって、何かを減らしてくださいとか、この会の議論や趣旨、経緯を周知してくださいと提案させていただいて、それについても努力はされているのだろうと思っています。一方で、少し聞いて

いる話を2点ほど紹介すると、やはり、職員のかたに周知が十分になされていない点と、3校ないし、4校で何か取組をしようというときに、ある学校とすると、その取組はこの学年からにしたい。という話をしたときに、それは困る。全部そろえて欲しいというような話が出てきて非常に戸惑ったという例もあります。もちろん、入ってくるのは困った話が主に入ってきますので、うまくいった話はあまり入ってこないでしょうから。それ以外の上手くいっている事例もたくさんあると思いますが、そんな話もありますので、今後もさらに尽力いただきたい。また、月平均30時間、時間外勤務というような話も出ています。今の勤務状態でいうと、昼休みを取れていませんので、それだけでおそらく20時間ぐらい行きますから、放課後に残るのは10時間ぐらいになります。そういう中で、全体のバランスをとりながら、どのように教員を守っていくのかという話を、ぜひ委員会の方でも検討していただきたいと思っています。

【長岡委員長】

先ほど委員の方からもありましたけれども、今日代表の委員さんの方に、改めて、事務局からも情報を発信しますけれども、この会議の議事録等を事務局から各委員さんに必ず送りますので、それを、それぞれの代表で来ていただいているので、横のつながりでしっかりと周知していただきたいと思います。あと、取組については発達段階もあるので、その校区の中で、なぜその学年からがふさわしいのかを議論する中で、そろえて欲しいという理由だけでやるのは確かに違うと感じます。どうしてもやることが子どもにとってマイナスだと明確な根拠が示された場合、それはそれで考えていいたらいいのではと思います。ただ単に、何も根拠がないままというのはちょっと違うと思いますので、各学校の推進担当者や管理職の方を中心にしていっていただけたらいいかなと思います。

【藤川委員】

先ほど木實先生からも、久米田中学校区の話はあったと思いますが、私は生徒会主担者として、校区の小中一貫の会議に入らせてもらっています。小学校の児童会の先生ともよく話させてもらったりもしていますが、8月の研修の前に1度会議をさせてもらって、そこではどの先生もやっぱり今ある活動に沿って、あまり負担にならないように考えたいという話も自然に出てきています。小学校も中学校も、新しいことやりたいけど、負担にならないように、出せるような形の取り組みとか提案をしたいねと話をしていく、久米田中学校自体は行事もみんな頑張る学校なので、行事を小学校ともつなげていきたいという話もしていました。以前は小学校の子たちを招いて文化祭とかも入ってもらっていたみたいな話も聞きましたが、文化祭も縮小してきていますし、体育大会も、やっと全校でできるようになってきたので、そこにまた招くとなると負担がすごく大きいと個人的に思っているので、例えば、合唱コンクールや文化祭の様子を映像で撮って、それを小学生に見せて、小学校の音楽会の見本になれるのではないかという話も出ていたので、そういうところから繋がっていくのもありではという話をしていました。また、英語科の先生の中にも生徒指導の先生も入っているので、次に入学してくる子たちの様子や顔とかも見て帰ってきてもらえるのは助かります。小学校の様子やきょうだい関係のこともいろいろ教えてもらったりとかがあります。あと年1回ですが、体験入学に小学校の子たちが来てくれるので、こちらも授業させてもらったりとか、子どもたちが部活動の様子を見に来てくれたりとかっていうこ

とは1日だけですけど、それ以外で小学校の子たちと、私たちの繋がりもできれば、校区全体で生徒指導というか、生徒たちや児童たちを見守るということもできるのではという話も、生徒会でさせてもらっています。まずは小さいところが繋がっていけたらなっていうことで今動いていく形です。

【長岡委員長】

本当に、子どもたちからしても小学校や中学校の先生がすごく繋がっているというのは、安心感につながります。先ほどから皆さんからもありましたように、負担感というのが、教師目線ですが、子どもの視点からも考える必要もあります。最後、取組を進めるにあたっての課題ということで、何かありましたら、お願いいいたします。この会の議事録は必ずその団体には周知してもらいたいとかも含めて確認をさせていただいているので、何かあればと思いますが、よろしいですか。議事が終わりました。5番については事務局に戻します。

5. その他

【村上】

それでは、5番のその他に入ります。今後の予定につきまして2点、お話をさせていただきます。まず1点目、次年度、令和8年度の推進計画につきましては、例年通り、2月末から3月上旬に、各小中学校の校長先生にご依頼を差し上げようと考えております。また時期が近づいたらアナウンスをさせていただきます。2点目です。次回の推進会議につきまして、各校区から提出された推進計画を含めて、3月初旬に実施をしたいと考えております。その際に各中学校から提出していただきました、推進計画を共有できればと思っております。5番のその他につきましては以上でございます。

【長岡委員長】

先ほど基本方針の改訂の話がここで出たと思いますが、次回の第2回目までに、各委員で考えていただきたいです。しかし、本年度中に改訂するかは別ですが。こういう意見があつてというようなことは、踏まえながら進めていく必要があると思います。よろしいですか。

【村上】

それでは以上をもちまして、令和7年度第1回岸和田市小中一貫教育推進会議を終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。

